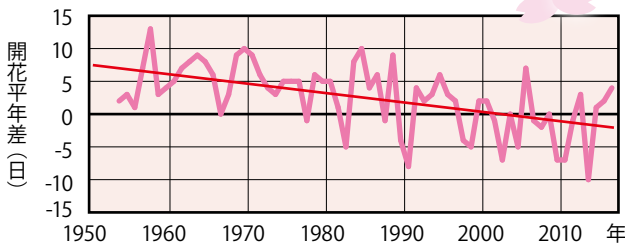


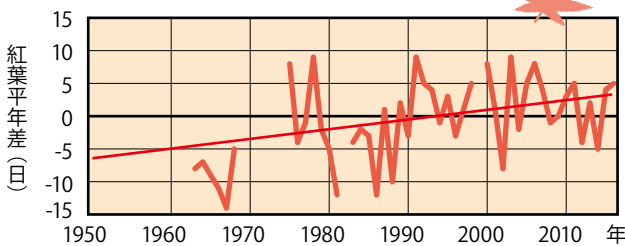
大分の植物の変化

大分市のサクラの開花は早く、カエデの紅葉やイチョウの黄葉は遅くなっています。

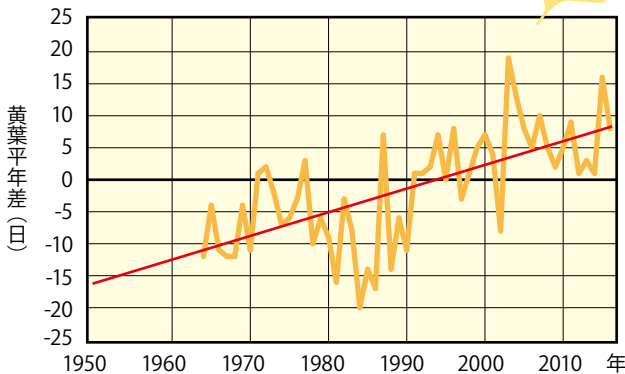
大分市のサクラの開花日の変化



大分市のカエデの紅葉日の変化



大分市のイチョウの黄葉日の変化



資料提供：大分地方気象台

九州山口県の植物の変化

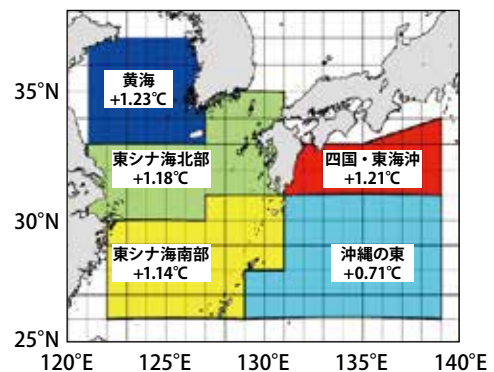
植物季節現象と長期変化傾向

現象	変化傾向	地点数	統計期間
ウメ開花	1.5	8	1953~2016
ツバキ開花	0.8	7	
タンポポ開花	-12.4	4	
イチョウ発芽	0.2	6	
サクラ開花	-5.8	7	
サクラ満開	-3.7	7	1954~2016
ノダフジ開花	-3.5	8	
サルスベリ開花	-3.0	5	
ススキ開花	5.9	6	
ヤマハギ開花	-38.6	4	
イチョウ黄葉	14.6	6	1953~2016
イチョウ落葉	5.6	6	
カエデ紅葉	22.3	5	
カエデ落葉	6.9	5	

(+)は遅い、(-)は早いを示す。(日/50年)
出典：九州・山口県の気候変動監視レポート

海面水温の上昇

九州・山口県周辺海域の海域区分と、100年あたりの海面水温上昇率



出典：九州・山口県の気候変動監視レポート

大分の生物の変化

ヤクシマルリシジミ

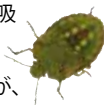
1970年ころは宮崎県南部まで分布していましたが、1992年から大分県に住みつき、近ごろでは福岡県でも見つかるようになりました。

ミナミアオカメムシ

ミナミアオカメムシに養分を吸い取られた大豆は、シワシワになってしまいます。宮崎や鹿児島でみられていた被害が、大分や福岡でもみられるようになりました。

ナルトビエイ

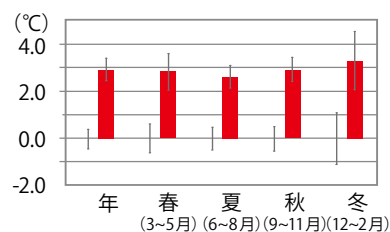
熱帯の海で見られるナルトビエイが、大分県北部の豊前海で、ひめ貝やアサリを食べてしまう被害が2003年から確認されています。



大分県の気温の将来予想

大分県の21世紀末の「平均気温」は、現在より約3℃の上昇が予測されています。また、冬日の日は減少し、熱帯夜、猛暑日の日数が増加することも予測されています。

日平均気温の変化



出典：大分県の温暖化予測情報(大分地方気象台 2014.3)